

CONTENTS



*Don't be afraid of making mistakes.
Let's try communicating in English.*

Report

これからの地球社会を生きる子どもたちのために

KUMON

English Immersion Camp 事務局

English Immersion Camp は、グローバル化が進む中、「地球社会に貢献できる人材の育成に貢献したい」「子どもたちには世界の人たちとコミュニケーションできる十分な英語力を身につけてもらいたい」という共通の夢・志を持つ人たちによって 2001 年夏にスタートしました。

2 回目となる今年、全国 34 の都道府県から集まった 100 名の小学生たちが 26 カ国 47 名のキャンプ・リーダーたちと 2 週間、英語での生活に挑戦しました。

そして、今年も素晴らしい成果を収めることができました。その成果とは、子どもたちが 2 週間で見せた変化と成長、そしてこのキャンプに関わった人々が学び、考え、行動したことのすべてです。

この成果をもたらした要因は、①「子どもたちが日頃の学習で身につけていた英語力と自信」であり、②「子どもたち一人ひとりの成長を真剣に願い、日々の変化・成長に気づき、認め、ほめ、元気づけた『人』の存在」に他なりませんでした。

日本では日常的に英語を使う環境にはありません。しかし、日頃コツコツと英語を学習している子どもたちは、世界の人たちと心を通わせ、積極的なコミュニケーションを楽しむ事ができるのです。この 100 人の子どもたちがはっきりと教えてくれました。そしてその姿は、「こんな子どもたちでいっぱいになったら、きっと平和な世界を築くことができる」と感じさせてくれました。

「なぜ英語を勉強するのか?」「生きる力としての英語とは何か?」「そして子どもたちの夢や目標をさらに大きく膨らませるために、大人はどう接するべきか?」みなさんのコミュニケーションのきっかけになればと願います。



キャンプの様子を収録した VIDEO があります。
報告書とあわせて、ぜひご覧ください。

CONTENTS

CONTENTS.....	1
はじめに.....	3
1.概要.....	4
ENGLISH IMMERSION CAMP とは.....	4
開催主旨・目的.....	4
成果の概略.....	4
実施概要.....	5
2.経過.....	6
ENGLISH IMMERSION CAMP タスクチーム.....	6
CONCORDIA LANGUAGE VILLAGE の視察.....	6
キャンプ・リーダーの募集～研修・・・人こそ全て.....	6
参加者の募集.....	9
3.内容.....	11
スローガン・基本指導行動.....	11
全体プログラム.....	11
プログラムの流れ（コンセプト）.....	12
一日の流れ（公文国際学園滞在時）.....	13
グループ制.....	14
英語を使いやすくするためのしかけ・パスポート.....	14
英語での日記.....	15
ENGLISH IMMERSION CAMP PHOTO NEWS(E-MAIL)の配信・ITの活用.....	15
キャンプ・リーダー&スタッフ ミーティング.....	16
4.14 日間の子どもの変化・成長.....	17
5.アンケートの結果から.....	25
6.コメント集.....	27
子どもたちの感想.....	27
保護者の感想.....	31
キャンプ・リーダー、スタッフの感想.....	33
7.昨年との変更点/今後の課題.....	35
主な変更点.....	35
今後の課題.....	36
8.考察.....	37
成功要因について.....	37
昨年との比較.....	38
おわりに.....	39

参考資料.....	40
参加者の内訳.....	40
キャンプ・リーダーの内訳.....	40
アンケートの集計結果.....	41
メディアによる取材・報道.....	42
英語基本指導マニュアル（日本語版）.....	44

はじめに

～今、皆が、地球規模で考えなければいけない時～

かつて、とてつもなく大きいと思われていた地球も、交通手段やIT、科学技術等の進歩によってどんどん小さなものになってきました。著しく国際化が進み、我々の日常生活も大きく様変わりしています。今やインターネットを使えば瞬時にして世界中どこにいる人とでも通信できますし、個人の意見を自由に世界に発信することも可能です。しかし、情報や生活の中で感じる「世界」が急速に近くなっているほど、人類の心の距離が近づいているとは言えないのではないのでしょうか。まだまだ、人口、食料、環境など地球規模の問題も山積みです。今こそ、世界中の人々が手と心をつなぎ、共に考えなければならない時なのです。

～English Immersion Campのはじまり～

明るい未来を創るには、「自ら考え、世界の人々と積極的にコミュニケーションし、行動できる『人』が育つこと」教育こそが最重要課題です。中でも「日本人が世界の共通言語である英語を使えるようになること」は緊急の課題ではないでしょうか。今や英語を公用語とする国の数は60に達し、公用語でなくとも実際に英語を使用している人の数を加えると、世界の4分の1から3分の1の人々が日常的に英語を使っているといわれています。さらにインターネット上の情報の8割以上が英語です。この小さくなった地球で全ての人々が手を取り合いながら、平和に生きていくために英語ほど大切なコミュニケーションの手段はありません。

2001年、「国際社会、人、教育、日本」のことを日々真剣に考え提言を行っておられる朝日新聞コラムニストの船橋洋一氏が、KUMONとの話し合いの中で、「このままでは日本の教育が、教育全体がダメになる！一緒にやりましょう！」との呼びかけをされました。KUMONは「私たちの夢である“世界平和”にここからも大きく貢献できる！」とがっちり握手を交わしました。その後、大分県知事の平松守彦氏、立命館アジア太平洋大学（APU）学長の坂本和一氏、職員の方々や学生、上智大学教授の吉田研作氏と学生、国際ジャーナリストの木下玲子氏へとその輪が広がり、『世界と直接触れ合う。世界共通コミュニケーション・ツール（英語）が何のために必要かをその中で体感・実感する English Immersion Camp』がスタートしました。

～子どもたちの夢・生きる力を支える本気の大人～

2001年、30名の小学生と17カ国22名のキャンプ・リーダー（CL）で始まった English Immersion Camp。2回目の開催となる今年、さらにその人の輪は広がり、参加者は100名、CLは26カ国47名となりました。「お互いに努力をすれば、分かり合える。英語というたった一つの言葉で世界の人々と心を通わせることができる」ということを子どもたちは肌で感じ、夢を大きく膨らませることができました。それを支えたのは子どもたち一人ひとりに真剣に向き合い、本気で接したCL、スタッフの存在です。現在の「混沌とする世界」を救うのは“人”です。

そして、「なぜ英語を勉強するの？」の答えは、子どもたちが「なぜ英語を使いたくなったか」という気持ちの中に見つけることができるでしょう。一人ひとりの子どもたちの英語が話せた！通じた！の喜びと感動は、子どもたちの将来にどのようにつながるでしょう。是非この冊子（ビデオ）全編をご覧ください。みなさんの「コミュニケーションの始まり」となれば幸いです。

1.概要

English Immersion Camp とは

Immersion とは「どっぷり浸す」という意味で、朝起きてから夜寝るまで、世界の共通語である英語での生活に挑戦します。英語「を」教えるキャンプではなく、これまでに身につけてきた英語をいろいろなアクティビティーや、実際の生活の中で使いながら、いろいろな国の人々とのコミュニケーションに挑戦する、英語「で」のキャンプである。

開催主旨・目的

English Immersion Camp は、グローバリゼーションが進む中、「地球社会に貢献できる人材の育成を通じて世界平和に貢献したい」「子どもたちには世界の人たちとコミュニケーションできる十分な英語力を身につけてもらいたい」という共通の夢・志を持つ人たちによって共同で企画され、2001年に第1回目がスタートし、今年が第2回目の開催である。

キャンプの目的・成果イメージ

- 子どもたちが、いろいろな文化をもつ人たちとの交流を通じてそれぞれの文化、考え方を知り、世界の中の自分を感じる
- 子どもたちが、英語を使ったコミュニケーションの成功体験を持つ
- 子どもたちが、世界への広い視野を持ち、自信・自己肯定感・意欲・やる気を持つ

さらに、上記の成果を多くの方に伝えることによって、

- ◆ 「日本人は母国語以外できない」という先入観を払拭し、日本の子どもたち、そして大人たちにも、リテラシーとしての英語力を身につけることは可能であるという自信や勇気を与えること
- ◆ 日本の英語教育を変えていくきっかけを作ること を目指した。

成果の概略

上記の「目的・成果」については十分に達成されたと考える。成功要因は以下の2点

1. 参加者が日頃の学習によってしっかりとした英語力と自信を身につけており、「英語でコミュニケーションできるようになりたい」という強い意欲を持っていたこと
2. このキャンプの目的を共有し、一人ひとりの子どもの変化や成長を徹底的に認めて、ほめて、元気づけたキャンプ・リーダーやスタッフたちの存在

2.経過

English Immersion Camp タスクチーム

KUMON のスタッフ 13 名によるタスクチームを結成。「今なぜ、何のために English Immersion Camp を開催するのか」全ての活動の大本となる価値観の共有に多くの時間を費やしながら、この活動が一企業の枠を越えたものであることを改めて確認した。

そして、企画・準備においては、取引先の方々も含め、お手伝いいただく全ての方に、English Immersion Camp 開催の意義・目的を十分に説明させていただき協力をお願いした。

Concordia Language Village の視察

タスクメンバーの代表 3 名でアメリカ、ミネソタ州の Concordia Language Village を視察。

Concordia Language Village は「グローバルコミュニティーを担う人材の育成」という理念のもと、イマージョン・キャンプを開催し、40 年の歴史と実績をもつ。ほぼ同年齢を対象とした日本語イマージョンを 1 週間(1 名は 2 週間)見学し、プログラムや指導、運営について学んだ。子どもたちの自由と自己責任、そして「楽しさ」を大切にする姿勢、キャンプ・リーダーの得意を生かすプログラムは「クラブ活動」として、今年のプログラムに反映した。

キャンプ・リーダーの募集～研修・・・人こそ全て

キャンプ・リーダーの条件

何よりも「子どもたちに直接接するキャンプ・リーダーこそが、成否の鍵であり、最も重要なキーパーソンである」ことは昨年の結果からも明らかであった。

条件としては、「世界共通語としての英語を十分に使いこなせる」ということ「年齢的に子どもに近い」ということも大切であるが、何よりも重要な条件は、「English Immersion Camp の意義・目的を正しく理解、共感でき、子どもが好きなこと。子どものために一生懸命になれる」ということである。

キャンプ・リーダーの募集

キャンプ・リーダーの募集は、APU(立命館アジア太平洋大学)と上智大学比較文化学部の学生サークル SOPHIA ALPHA の 2 箇所。

条件に適した人材を選ぶためには、直接会って話すことが不可欠と考えた。まず、応募の段階で教育に対する考えを記述してもらった。そして説明会后に、全員と面接。さらに、その後の研修への参加を必須条件とした。

[応募者のエントリーシートより]

I believe education should not just be a matter of learning and memorizing sums, writing essays and theories, but also a life learning process as well. Education should involve academic learning as well as practical learning. I think the English immersion camp supports my view on education because it provides a real life experience that allows children to play, chat and socialize in English. Thus their academic skills are developed through practical experience. Furthermore, I think it is important for children to gain such experience at an early age. If children are nurtured at an early age to interact in English (and not just study English), I think they are more likely to become successful leaders in the international scene. I sincerely hope to be involved in this process of nurturing.

Educating children is one of the most necessary things and the best investment for a society. In order to make a country a better place to live, we need educated people. Which has to start from children. Also, my opinion is that education must be along with having fun for children.

My personal experiences shows that children will be more encouraged to learn when you can explain things to them by playing with them. And that is what Kumon is providing for children. These children can be tomorrow's teachers.

説明会・面接

説明会では、English Immersion Camp の目的、キャンプ・リーダーの条件、個人別・能力別・自学自習という公文式の考え方とともに、一人ひとりの子どもを大切にするという基本姿勢などについて英語で説明。APU では昨年参加のキャンプ・リーダーがスピーチを行なった。

面接では、「子どもが好きか？ 子どものために一生懸命になれるか？」という点を最重要視し、のべ4日間を費やした。面接は4名の KUMON のスタッフが直接担当し、26 カ国 47 名のキャンプ・リーダーが決まった。

APU と SOPHIA ALPHA で募集規模の違いはあったが、選考過程、条件等は全く同じ。

応募者の多くは英語を母国語とはしていなかったが、世界共通語としての英語を自ら獲得し、使いこなしている人たちばかり。「子どもたちに英語の楽しさを教えたい。」「人財育成に貢献したい」「教育こそが未来への投資」という彼らの意識、志の高さには改めて驚かされた。



<APU> 説明会：5/15(水) 面接：5/15(水)～18(金) 応募：105名 採用：25名

ポスターや資料の学内設置、Entrepreneurs のホームページを経由しての情報提供を行ない、KUMON へエントリーシートをEメール送信するという流れとした。

APU には、60 を越える国や地域から意欲的で志の高い学生が多数集まっており、English Immersion Camp 第1回目の開催地という実績がある。昨年度のキャンプ・リーダーは17カ国 22名の全員が APU の学生であったが、その22名全員が2年連続での参加を希望。うち1

名はすでにエクアドルへ帰国していたが、このために、再来日した。このことは今年の English Immersion Camp が子どもたちにとってだけでなく、キャンプ・リーダーたちにとってもいかに貴重な経験であったかを物語っていた。

＜SOPHIA ALPHA＞ 説明会・面接：5/9(木) 応募：10名 採用：2名

上智大学比較文化学部は留学生や帰国子女が多く英語が共通語という環境であり、中でも SOPHIA ALPHA は地元の小学校へ出向いての国際交流活動などを積極的に行なっている。

研修

価値観の共有とチームとしての結束を固めるために、キャンプ・リーダーとスタッフで3回の合宿、ミーティングを実施し、指導の基本の確認、プログラムの演習や意見交換を行なった。

特にキャンプ・リーダーたちがそれぞれの個性や得意、お国柄を生かして企画・運営する「クラブ活動」については主体的で活発な意見交換が行なわれた。

1) 合宿①

日時：6/22(土)～23(日)

場所：豊泉荘（大分県別府市）

テーマ：価値観の共有、指導の基本の確認、
チームとしての一体感の醸成
全体プログラム、アクティビティー
の内容を確認し、それぞれの役割、
担当を決めること。



2) 合同ミーティング & Mini Immersion Camp

日時：6/30(土)

場所：APU

テーマ：キャンプ・リーダーが担当するクラブ活動について、それぞれのチームで意見交換
子どもたちを対象にした、アクティビティーの実践トレーニング

Mini Immersion Camp

100名という規模での対応、運営のイメージを固めるために、1日プログラムを開催。募集要項の基準を満たす大分県、福岡県内の公文式学習者に協力依頼し、118名が参加。

短時間でも、十分子どもたちと楽しく過ごすことはできた。しかし、「英語で」のコミュニケーションを促すことの難しさも実感した。「日本語を使うことも必要ではないか」との意見も出たが、子どもたちに明るく接し、安心感、信頼感を高めること、認めて、ほめて「自信」を持たせることの重要性など、English Immersion Camp の目的と基本事項を見直し「英語」にこだわることを再確認した。

3) 合宿②

日時：8/4(土)～5(日)

場所：公文国際学園

テーマ：現地施設の事前掌握、プログラム等の最終確認と準備

参加者の募集

開催時期

北海道や北日本など夏休みが短い地域の子どもたちも参加できるよう、8/5(月)～8/18(日)の2週間とした。また、最終日(卒業式)を保護者の参加しやすい日曜日に設定した。

募集方法

全国の公文式教室を通じて、パンフレットを配布(4月下旬)、会員誌への広告掲載
朝日小学生新聞、毎日小学生新聞:5/11(土)に広告掲載。KUMONのホームページで告知

応募状況

6/14までの期間に、367名が応募

申込用紙(エントリーシート)には、「自分の英語の力を試してみたい」「世界の人たちと英語でコミュニケーションしてみたい」「宇宙飛行士になるという将来の夢をかなえるためにぜひ参加させて欲しい」「去年から参加したかったので、頑張って英検の資格をとった。」「私を選んで!」という子どもたちから夢いっぱい、積極的なメッセージとともに、「英語を学習しているが、実際に使う場面がない。その経験をさせてあげたい」という保護者からのメッセージが溢れるほどに書き綴られていた。ここからも彼らの意欲・欲求の高さを伺い知ることができた。

参加者の確定

応募者の中から、抽選で100名(4年生25名、5年生35名、6年生40名)を決定した。
一般からの応募もあったが、抽選の結果、今回は98名が公文の英語学習者となった。

今回のイメージ・キャンプへの意気込み、やる気、夢等を自由にご記入下さい(必ずご本人が記入して下さい)

わたしの夢は、「宇宙飛行士」です。そのためには、「NASA」
に行き勉強しなければならぬけれど、英語を話せるようになり
ないといけないので、英語を「はずかしがらず」に「いっぱい話し
て、お友達を作ったり、英語になれたいので、参加したいです。
それに、英語を話したり、勉強したりするのは、大好きだし、みんな
に英語だけは負けたくないので、参加してがんばりたいです。
でも、はじめて、多くの人と英語で話したりするのは、ちょっと
ドキドキするし少し不安もあります。でも私は、チャレンジしてみなきゃ
わからないと思います。もし、行けなくても、他のことに
いっぱいチャレンジして、自分が出きることをぶちたいです。
私はこれが、宇宙飛行士になるための第一歩だと思っています。

保護者の方からのコメントをご記入ください

一昨年あたりから、公文のスイス校でのサマースクールへの参加を考慮しておりましたが、本人
の年齢が低いのと、英語力が未熟だったため、保留のままでした。昨年英検
4級に合格したのを機に、今年はサマースクールに挑戦しようと考えていたところ、今回のキャン
プの事を知り、応募することにいたしました。国内でこのような長期向に渡る
キャンプという事で、是非、本人にとって良い体験となって今後の英語学習への取り組み
へのステップアップにつながってくれたらと思います。又、普段、外国の方にはあまり

*エントリーフォームは返却いたしませんのでご了承下さい。

今回のイマージョン・キャンプへの意気込み、やる気、夢等を自由にご記入下さい(必ずご本人が記入して下さい)

僕は小さい時から英語を勉強してきたけれど、英語を使う機会がほとんどなかったから、このキャンプに参加して英語を使って外国の人や友達と話したい。
 2週間も英語だけの生活なんて、どんなふうになるか考えられないけれど、楽しみだ。どんな友達かできるか、ほんとに楽しみにしている。英語を話すのはちょっとはづかしいけれど、そのうちどんどん話せるようになっていくと思う。
 いつかは外国へ行って、自分の思っていることを英語ではっきり伝えられるようになりたい。

English Immersion Camp 2002

英語にとっぷり浸る14日間
イングリッシュ・イマージョン キャンプ2002 参加者募集!!

Immersionとは「どっぷり浸る」という意味。14日間、キャンプリーダーと英語でコミュニケーションをします。子どもたちと一緒に活動するキャンプリーダーは、世界各国から集まった留学生たち、彼らが子どもたちを歓迎しサポートし、すべて英語でコミュニケーションを取りながら、さまざまなアクティビティを一緒に実施していきます。英語のキャンプはなく、英語アソシエーション。このキャンプで、英語が使えるようになるという喜びを体験し、英語学習の楽しさを身に付けて欲しいと考えています。

● 開催期間：7月11日(日)～14日(水)
 ● 参加費：110,000円(税別)
 ● 申込期間：6月25日(日)～7月10日(水)
 ● 申込方法：お申し込み用紙をダウンロードし、お申し込みください。
 ● 申込先：〒100-0001 東京都千代田区千代田1-1-1 日本公文教育研究会 事務局
 ● 申込先：〒100-0001 東京都千代田区千代田1-1-1 日本公文教育研究会 事務局
 ● 申込先：〒100-0001 東京都千代田区千代田1-1-1 日本公文教育研究会 事務局

① 子どもたちがくわいする各国や地域の文化との交流を通して、それぞれの文化、考え方を知り、世界の広さを体感する。

② 子どもたちが、英語を使ったコミュニケーションの成功体験をもつ。

③ 子どもたちが、世界への思いや視野を拓き、自信・自己肯定感・意欲・やる気を持つ。

日本公文教育研究会 イングリッシュ・イマージョン・キャンプ事務局 ☎0120-300-665 KUMON

3.内容

スローガン・基本指導行動

Don't be afraid of making mistakes. Let's try communicating in English.

(間違いを恐れない、はずかしがらないで、英語でのコミュニケーションに挑戦しよう)

- 「楽しむこと」が基本
- 子どもたち一人ひとりを大切にして、それぞれの努力、変化と成長を見逃さず、認める、ほめる、元気づけること。自信をもたせること信頼関係を築くことを最も大切にした。
- もし英語に間違いがあっても、訂正する前に、英語を使おうとした姿勢そのものを認める、ほめること。[巻末資料：英語基本指導マニュアル参照]

全体プログラム

	午前のアクティビティー	午後のアクティビティー	テーマ
Day 1 8/5(月)		オリエンテーション 入学式/自己紹介	緊張をほぐし、心を開く
Day 2 8/6(火)	学内探検ツアー	グループ旗作成	
Day 3 8/7(水)	パソコン クラブ活動 ※1	チャレンジ・ランキング ※2 クラブ活動	
Day 4 8/8(木)	公園へお散歩	チャレンジ・ランキング クラブ活動	
Day 5 8/9(金)	クラブ活動 アート&クラフト：夢の島を作ろう	アート&クラフト：夢の島を作ろう クラブ活動	お互いを 知り、理解 を深める
Day 6 8/10(土)	スポーツ大会	クッキング 夜) バーベキュー	
Day 7 8/11(日)	アメリカの子どもたちと交流	クラブ活動	
Day 8 8/12(月)	キャンプ・ファイヤーの衣装・楽器作り	キャンプ・ファイヤーのパフォーマンスの練習	
Day 9 8/13(火)	愛川ふれあいの村へ移動 (野外活動施設)	カレー作り	野外活動 を通じて 協力、協調
Day10 8/14(水)	オリエンテーリング	ビッグ・バルーンを上げよう 夜) キャンプ・ファイヤー	
Day11 8/15(木)	自由時間(スポーツ・ビデオ)	公文国際学園へ移動	
Day12 8/16(金)	オリジナルTシャツ作り	まとめ発表の準備・練習	
Day13 8/17(土)	まとめ発表の準備・練習	まとめ発表 夜) パーティー	世界の中 での自分 を感じる
Day14 8/18(日)	卒業式		

プログラムの流れ（コンセプト）

- 安全に関すること、決まりごとなど、重要な伝達事項を確実に伝えるため、入学式前のオリエンテーションは日本語で行なった。（特に具合が悪いときなどは無理せず日本語で相談するように指導）
- 特に最初の2日間は、緊張をほぐすこと、チームメンバーが仲良くなることを主眼においぎ、チームでの活動、身体を動かす活動を中心に構成した。
- 生活に変化をつけるために、愛川ふれあいの村（野外活動施設）への外泊を盛り込んだ。
- 共同作業を通じて、自然にコミュニケーションを促進できるよう、また、それぞれの個性や文化を表現しやすいように衣装作りや楽器作りなどの創作活動をふんだんに取り入れた。
- ある目標に向けて個人や各チームで取り組み、その成果を英語で発表する場を設定した。（キャンプ・ファイヤーでのプレゼンテーションやまとめ発表など）

※1 クラブ活動：キャンプ・リーダーが主体となって企画・運営。それぞれの得意、個性、お国柄などを生かした。主体性を尊重。子どもたちも毎回、参加したいクラブを自由に選ぶことができた。（前日の夜までにエントリー）

音楽、ダンス、スポーツ、料理、アート&クラフト、図書、ニュース&カメラ

※2 チャレンジ・ランキング：空き缶積み、的入れなど、自分の記録に挑戦するゲーム



一日の流れ（公文国際学園滞在時）

時間	項目
07:00-	起床
07:30-	Morning Exercise
08:00-	朝食
08:50-	学習タイム ※1
09:50-	アクティビティー①
11:10-	アクティビティー②
12:20-	昼食
13:10-	お昼寝
14:00-	アクティビティー③
15:10-	おやつ
15:30-	アクティビティー④
16:40-	グループ・ミーティング※2
18:00-	夕食
19:00-	全体ミーティング※3
19:30-	入浴、洗濯、自由時間
	キャンプ・リーダー&スタッフ ミーティング※4
21:30-	就寝

※1：学習タイム

学習習慣を保つために、毎朝1時間の学習タイムを設定し、各自持参した課題を学習。

公文式の英語学習者用に、専用のCD学習機器を備え、プリント学習後の音読確認はキャンプ・リーダーが実施。ここでも認める・ほめるを実践し、自信と意欲をアップした。

※2：グループ・ミーティング

各グループごとに、自分たちで撮ったデジカメ写真から、その日のベストショットを選び、1日を振り返る。

各自英語で日記を書く。キャンプ・リーダーたちは一人ひとりの日記にコメントを記入。

グループ内で発表し、全体ミーティングで日記を発表する代表を決めた。

※3 全体ミーティング

翌日のプログラム、準備物などの確認。各グループの代表者が日記を発表。3日目以降、クラブ活動の成果を自主的に発表された。

※4 キャンプ・リーダー&スタッフミーティング：子どもたちを宿舎に帰した後、毎晩キャンプ・リーダーとスタッフのミーティングを実施した。情報交換の重要な時間であった。



グループ制

英語でのコミュニケーションを促進し、お互いを深く知り合うためにもメンバーを固定するグループ制が有効であると考えた。

各グループ子ども 10 人（男女、学年混合）とキャンプ・リーダー4、5 人の 10 グループを編成。基本的な活動はこのグループ単位で行い、それぞれに活動の拠点となる部屋を準備。最終日まで同じグループで行動した。

100 名という大きな規模であったが、キャンプ・リーダーはグループの子どもたちの様子を正確に把握でき、お互いの情報共有も促進された。また、子どもにとっても自分のグループのリーダーがはっきりしていることで安心感があり、仲間意識も育った。

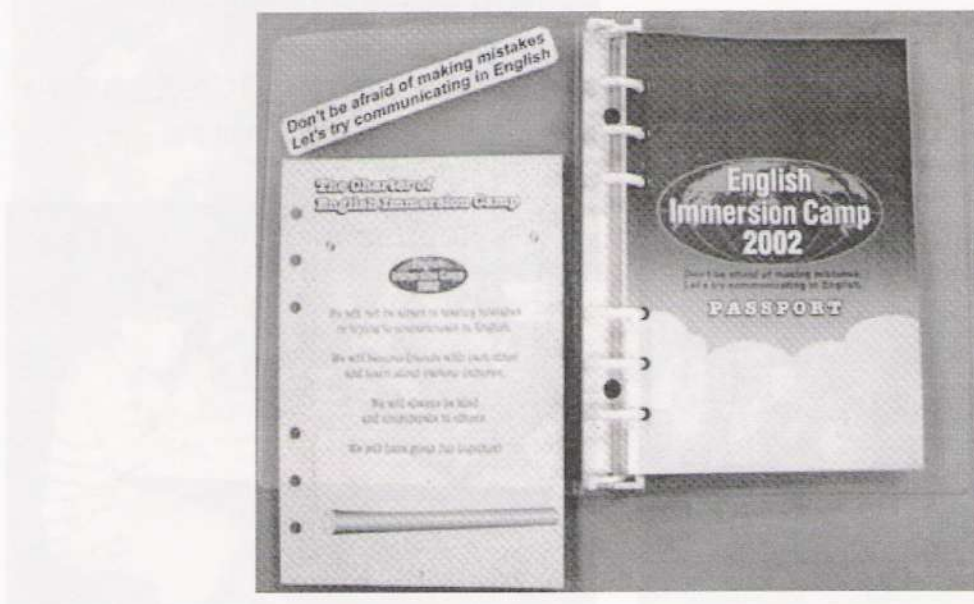
ただし、宿泊の部屋割り（4人部屋）やクラブ活動などのアクティビティーにおいては、グループを枠をはずし、できるだけいろんな人と交流ができるように配慮した。

英語を使いやすくするためのしかけ・パスポート

パスポート：初日にパスポートを配布。全文英文標記で内容は、スローガン、参加者・スタッフのリスト、毎日のスケジュールと準備物、Key Phrases、日記、歌詞、メモ・住所録、緊急連絡先など。

Key Phrases：それぞれのアクティビティーに関する表現を提示し、意識的に使うようにして説明理解を促した。

歌・発表：夜のミーティングはもちろん、アクティビティーの合間や移動時間などでも良く歌を歌った。またアクティビティーの中でも簡単な発表の機会を多く設けた。



英語での日記

子どもたちは毎日グループ・ミーティングの中で、その日のできごとや感想を英語で書いたが、単に思い出の記録ではなく、子どもたちの日々の変化・成長をしっかりと認め、ほめ、元気づけるための貴重な資料でもあった。

キャンプ・リーダーは一人ずつの日記に必ず努力を認めるコメントを添えて形に残す。そして子どもたちが一人ずつ自分の日記を声に出して発表。そのたびに大きな拍手とほめ言葉のシャワーが浴びせられた。「英語で気持ちを表現することができているよ」「シッカリ伝わるよ」「君たちはやればできるんだよ」これが子どもたちの大きな励みになった。英語を話すのは難しいと思っていた子どもたちも、「自分が書いた英語、自分の言葉で気持ちを伝えることができた」という成功経験によって自信を大きく膨らませた。

各グループの代表が、全体ミーティングで日記を発表したが、3日目にはあちらこちらのグループから手が上がり、大きな声で「今日は僕に読ませて！ 私に読ませて！」という強いアピールが始まった。予期せぬできごとにキャンプ・リーダーもスタッフも驚きを隠せなかった。

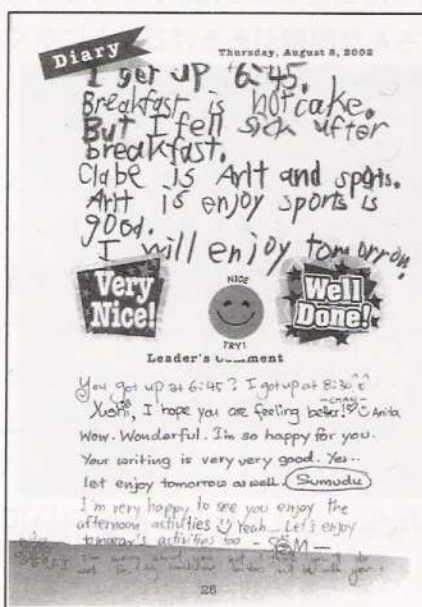
English Immersion Camp Photo News (e-mail) の配信・IT の活用

各グループに1台ずつデジタルカメラを配布し、思い思いの写真をとった。毎日その中からベスト・ショットを選び、English Immersion Camp 2002 Photo News を作成した。

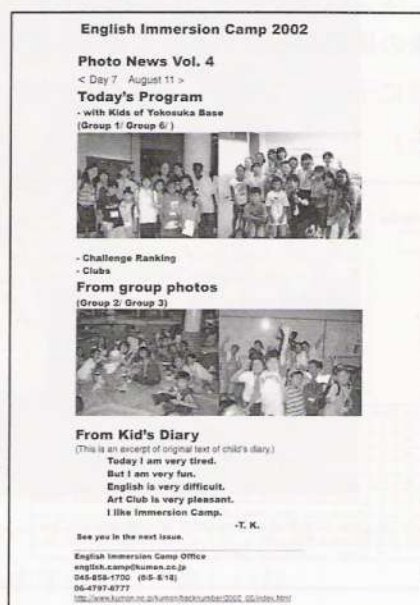
この Photo News は、予め登録された家族や知人、関係者に期間中2～3日おきに計6回、配信された。「子どもたちの変化の様子が良くわかる」と大変好評だった。

また、12日目にはこの写真データを活用して、一人ひとりのオリジナルTシャツを作った。

日記



English Immersion Camp 2002 Photo News



キャンプ・リーダー&スタッフ ミーティング

5月10日 読売新聞

毎晩アクティビティーの終了後、キャンプ・リーダーとスタッフによる全体ミーティングを実施した。各グループから、子どもの様子、運営上の問題点や改善提案が行なわれ、グループを越えて Good・Bad 情報や気づきの共有を図った。



特に初日には、子どもたちの英語力の差が問題になった。英語でのコミュニケーションにほとんど問題のない子どもがいる一方で、日記に一言も書けなかった子がいる。また、全体ミーティングでの英語での日記の発表者が帰国子女を含め、英語に相当自信のある子どもたちばかりであったために、そうでない子どもたちが自信を大きく失ってしまった。英語を全く話そうとしない子どもにどうしたらいいか?・・・2年目キャンプ・リーダーの中から声があがった。「大丈夫。その違いを受けとめてあげることが大事なんだ」「一人ひとり、その子のできることを認めて、ほめてあげること」「もし明日、単語1つでも言えたらいい。書けたらいい。それを思いっきり喜ぼう」「話すのは苦手かもしれないけど、話は十分に聞いているし、読んだり、書いたりするのは得意な子も多い。朝の学習で読む英語をほめるのも大事だよ」と。

こうしたキャンプ・リーダーたちの真剣な取り組みや行動が子どもたちに伝わり、信頼関係が深まっていった。「自分のことを一生懸命に考え、愛してくれるこのキャンプ・リーダーたちともっと分かり合いたい」この気持ちが、英語を使うことへの恥ずかしさや抵抗を薄れさせ、コミュニケーションがどんどん積極的になっていった。

一方で、100名という規模の運営は必ずしもスムーズではなかった。準備や情報伝達の不足なども原因となってキャンプ・リーダーたちのストレスが大きくなったこともあったが、そんな時にも問題解決の場となったのが、このミーティングであった。「いろんな問題があるけど、とにかく今、目の前に子どもたちがいるんだ。ベストを尽くそう。私たちは子どもたちのためにここにいるのだから」

Immediate coments / concerns					
Date 2002/08/					
Group					
<p>Over all, the whole group is coping out pretty well. Everyone's interacting with each other... still there is a gap between boys and girls but still they're talking frequently. Give a bit of Japanese if need be still they are cutting down on it.</p>					
#	Name	Sex	Grade	Observations	CL
1	Mitsuko Sato	M	5	Good to see a lot of English...	JOHN
2	Satoshi Kajimoto	M	4	He talks a lot!!! He is strong	JUSTUS
3	Takuya Akawa	M	5	He talks a lot... I like his attitude...	HELEN
4	YOSHIO	M	5	He talks a lot of English...	HELEN
5	Toshikazu Kaneda	M	5	He talks a lot of English...	HELEN
6	Maho Takamura	F	5	She talks a lot of English...	HELEN
7	Mitsuo Nakayama	F	5	She talks a lot of English...	HELEN
8	Mamiko Kawai	F	4	She talks a lot of English...	HELEN
9	Rie Ohara	F	5	She talks a lot of English...	HELEN
10	Yumi Nizaki	F	5	She talks a lot of English...	HELEN

キャンプ・リーダーたちは、それぞれに思っていることを感じていることを遠慮なくストレートに表現し、ぶつけ合う中でより良い解決策を導き出していった。これこそが「コミュニケーション」ではないだろうか。日本人スタッフもこうした彼らの姿から多くを学ぶことができた。

← 子どもたち一人ひとりの状況について「immediate coments」で報告

4.14 日間の子どもの変化・成長

Day-1 8/5



いよいよキャンプの始まり
受付でちょっと緊張…



入学式
英語での説明にドキドキ

Day-2 8/6



校内に隠されたレターをさがせ！
『N』～！ We found it!



グループのみんなで作った旗。みんなできにかをするのって楽しいね

Day-3 8/7



フェイス・ペインティングって初めて…
(クラブ活動)



この日、「日記を読ませて！」というアピールが始まった

Day-4 8/8



近くの公園に散歩
自然にふれるとなんだかりラックスするね



チャレンジ・ランキング
誰が一番長くおとさないでいられるかな？

Day-5 8/9



ようこそ、アートクラブへ！
記念手形にサインを書いてね。



グループの Dream Island を作ろう
みんなの夢はどんな夢？

Day-6 8/10



スポーツ大会で汗を流す
「Ready、Set、Go！」



待ちに待ったバーベキュー
たくさん食べるぞ～

Day-7 8/11



アメリカ人の子どもたちと一緒にゲーム
「英語ができると、楽しいね」



キャンプファイヤーで着る衣装を作ろう
「これが似合うよ」

Day-8 8/12



それ、何の変装？



楽器を作るのって、難しい・・・けれど、
楽しい！

Day-9 8/13



キャンプ場でカレー作り



できたカレーを「いただきます〜す！」
外で食べると一段と美味しいね

Day-10 8/14



思い出の一つ
飛べ、飛べ、ビックバルーン



最高に楽しかったキャンプファイヤー！
いつまでも忘れないね

Day-11 8/15



Don't be afraid of making mistakes.
もっともっと英語で話そう！



暑かったけど、楽しかった
愛川キャンプ村、さようなら！

Day-12 8/16



一番の思い出をTシャツにプリント
世界に1枚だけのオリジナルTシャツ



グループ発表に向けての練習準備
真剣な顔で練習しているね

5. アンケートの結果から

Day-13 8/17



キャンプの2週間の感想文を発表
とても堂々と上手に読めたね



♪Y～、M、C、A♪

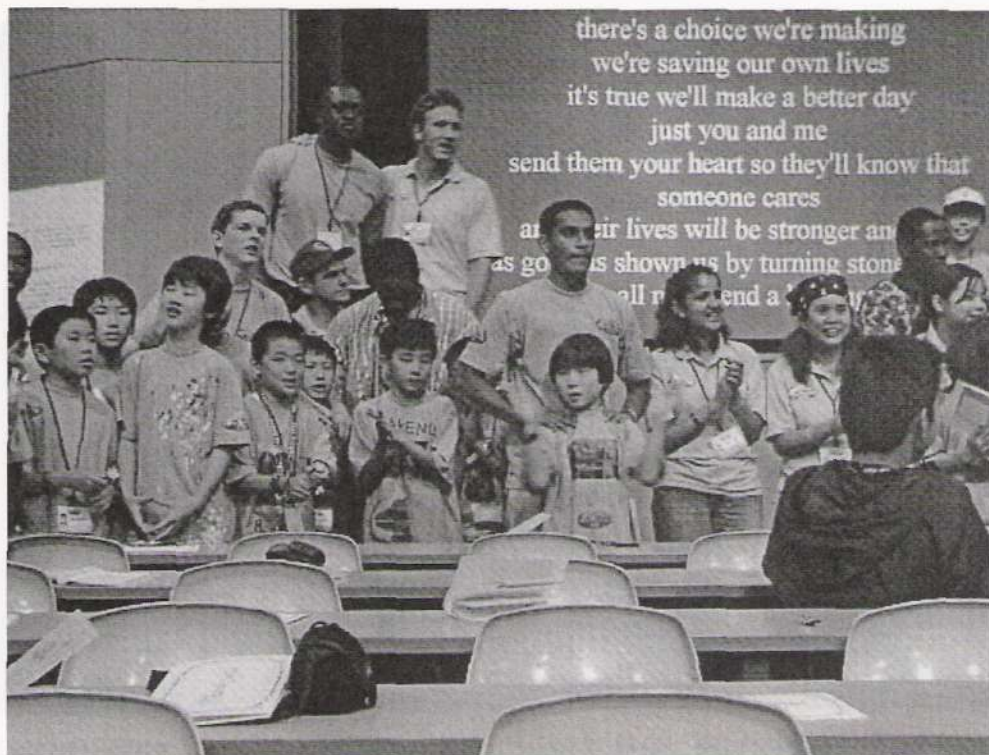


さよならパーティーのごちそう どれから食べようかな? いよいよ明日で終わり・・・

Day-14 8/18



2週間を終えて、卒業証書を手に晴れ晴れとした笑顔！



卒業式で We are the world.をみんなで大合唱 まるで大きな一つの家族のようになった

5. アンケートの結果から

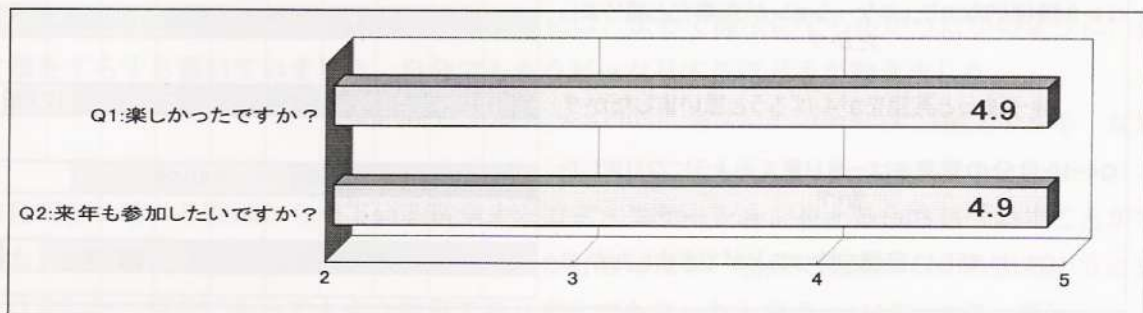
キャンプの終了後に日本語によるアンケートを実施した。(郵送記名方式、有効回答数95)
5段階評価(5:大変そう思う 4:そう思う 3:ふつう 2:そう思わない 1:全く思わない)
全体的な満足度とともに、今回の English Immersion Camp でどんな成果が得られたのかを尋ねた。特に Q4-1~11 は応募段階でのアンケート「English Immersion Camp に期待するもの」と同じ内容であり、参加の目的に対する満足度でもある。

全ての質問に対する回答の 85~95% を評価「5」「4」が占めており、参加者の満足度の高さとともに、キャンプを通じて得た成果、自信や意欲がはっきりと読み取れる。[参考資料 P41 参照]

Q1: English Immersion Camp は楽しかったですか？

Q2: もし、可能なら来年も参加したいですか？

90%以上の参加者が「5」を選択。対象学年が小4~小6となっていたため、中学生になっても参加させてほしいという小6生の声も多かった。



Q3: 一番楽しかったアクティビティを「3つ」選ぶとしたら？

1位: パーティ (38)、2位: クラブ活動 (37)、3位: キャンプ・リーダーとのおしゃべり (36)、
4位: キャンプ・ファイヤー (31)

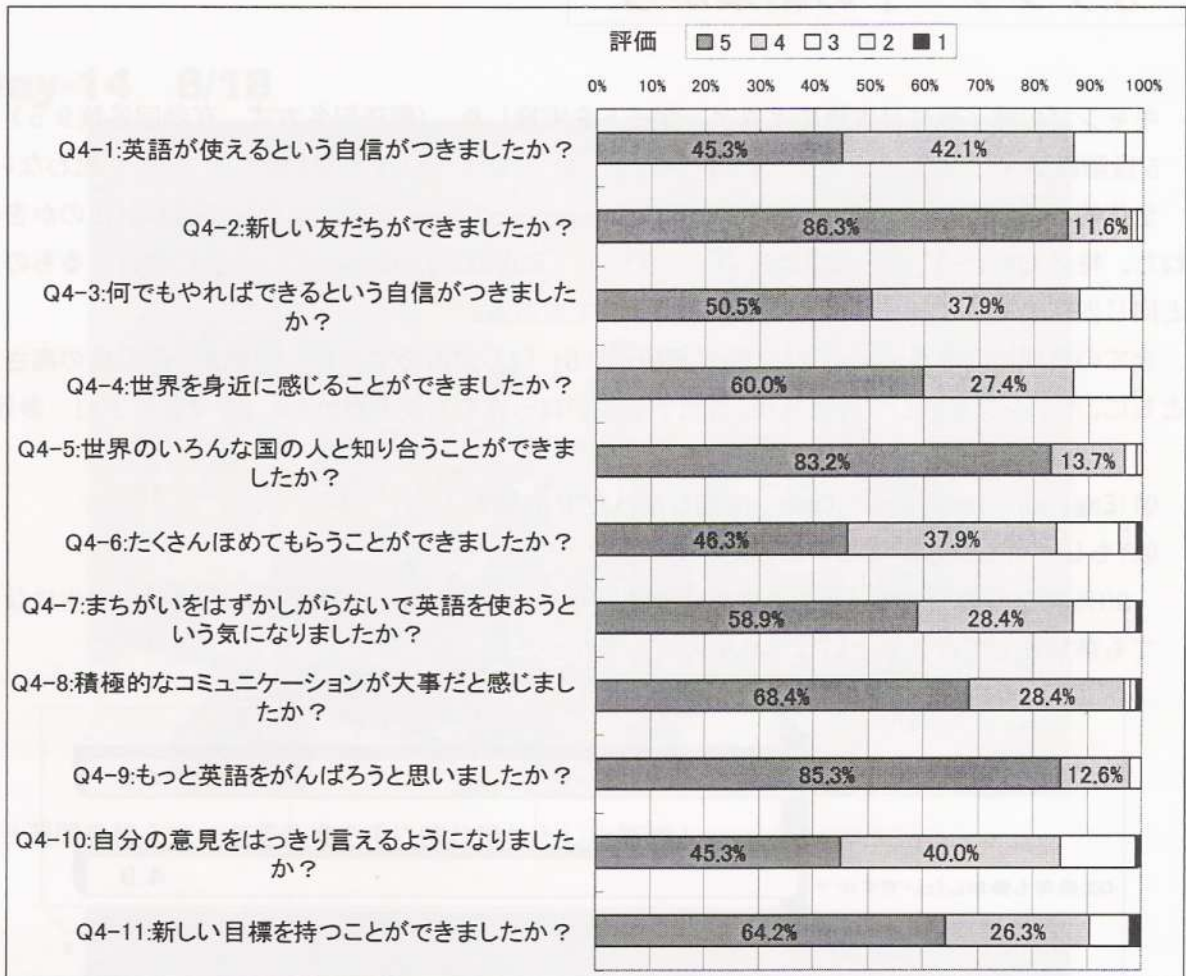
自由と自主性が尊重される中でいろんな国の文化や価値観に触れることができたこと、みんなで協力して何かを作り上げていく中で得られた楽しさや達成感などが要因であろう。

友だちができた！ 世界が広がった！

また、キャンプ・リーダーとのおしゃべりの他、アメリカの子どもたちとの交流が7位 (18) に入っており、英語をコミュニケーションの道具として使う楽しさを十分に感じられたことが伺われる。

友だちとのおしゃべりが6位 (18)、全国に交友関係が広がったことも大きな成果であったと思われる。「日本中、世界中にたくさん友だちができて嬉しかった！」このことは、Q4-2: 新しい友だちができましたか？ Q4-5: 世界のいろんな国の人と知り合うことができましたか？ に対する評価が特に高かったことからもうかがえる。

Q4-1～11 について



自信がついた！ やればできる！

応募の段階で特に期待値が高かったのは、Q4-1:英語が使えるという自信をつけること、Q4-3:何でもやればできるという自信をつけること、Q4-7:まちがいはずかしがらないで英語を使おうという気になること、Q4-8:積極的なコミュニケーションが大事だと感じること の4点であったが、その期待にも十分に答えられたようである。

特に、「自信を持たせること」はこのキャンプを通じて最も大切にしてきたが、たくさんほめてもらう中で、英語だけでなく、何だってやればできる。失敗を恐れずにいろんなことに挑戦してみようという気持ちが確実に育った。そして、自分の意見をはっきり言えるようになったという子どもたちは、自分で「自分に力がついた」と評価できた、そのこと自体が「自信」「自己肯定感」の何よりの証ではないだろうか。

さらに意欲的に！ もっとがんばる！

自信を得たと同時に、まだまだ足りないということにも気がついた。積極的なコミュニケーションが大事だと肌で感じ、英語をもっと自由に使えるようになりたいという気持ちを強くした子どもたちは、新しい目標とともに、「もっと英語をがんばろう」という決意を固めたようである。

6.コメント集

キャンプ終了後に依頼した感想文からの抜粋である。参加した子ども本人とともに保護者（公文式学習者には通っている教室の指導者）からのコメントも添えてもらった。

子どもたちの感想

<感動・感謝>

おわりのとき、みんなもぼくも泣いていた、キャンプが終わってぼくは、イマージョンキャンプの夢をみた。夢のなかでぼくは英語をぺらぺら話していた。(N.I 4年 男)

一番大事なのは、Don't be afraid of making mistakes. Let's try communicating in English.だと思う。これこそ世界の共通語だ。(H.S 4年 男)

このキャンプで一番心に残ったことは、グループミーティングでした。英語で日記を書くことはとても難しいことだったけど、何日かすると私は、まるで魔法にでもかかったかのように、長い文章をすらすら書いていました。自分でももうビックリするほど手が動きました。

(M.U 5年 女)

毎日毎日いろいろな国から来ている留学生とコミュニケーションをとるうちに「話すことができる力」がついてきたと思う。英語を話すことが好きになり、自然に英語が口から出るようにまじりました。自分にとって大きな進歩であり変化でもあったと思う。(H.T 5年 男)

私は、このキャンプでたくさんのことを学びました。くじけないこと、自信をもつこと、少しがまんすることを、最初は2週間なんてちょろい！と思っていたけれどいざお母さんから離れると不安でおしつぶされそうでした。そんなときキャンプリーダーは、やさしく声をかけてくれて本当にうれしかったです。～ ただひとつ気にいらないことがあります。卒業式の歌です。私はそれまでがまんしてニコニコしていたのに、あんな歌が流れたら、もうがまんできなくなって泣いてしまいました。(R.T 5年 女)

グループのリーダーはとってもたのしい人たちでした。だからこそ、私はいつもいつも楽しくやってこれたのだと思います。悲しいときや不安なときはなぐさめてもらったり、励ましてくれたりしました。楽しいときは一緒に笑いあったりして、本当の家族のようでした。卒業式の時は、みんなで一緒に"WE ARE THE WORLD"を歌いました。あの時みんなの気持ちは一つになっていたと思います。(M.N 5年 女)

一日が終わると日記をみんなで書く時間があって、日記も英語でかかなくてはいけませんでした。1日、2日は戸惑ってなにを書いていいとか、どう書けばいいとか悩んでいました。でも、3日目からは、なんかスラスラ書けていました。リーダーたちは、みんな親切にしてくれたし、分からない単語を教えてくださいました。私はいままでよりも英語が好きになりました。

(N.S 6年 女)

ものすごく、ものすごく、ものすごく、ものすごくを100回いれていいほど楽しかったキャンプでした。～ これからもっと、もっと勉強して外国の人となんでも話せるようになりたいです。(A.S 6年 女)

とても長いと思っていた2週間はあっという間に過ぎていきました。自分で積極的に英語を話す喜びを経験しました。Don't be afraid of making mistakes. Let's try communicating in English.これからも失敗を恐れずにいろいろなことにチャレンジしたいと思います。本当に最高の14日間でした。(S.I 6年 女)

途中から「よし！ この14日間の中でたくさんコミュニケーションをしよう！」という思いが心の中に湧いてきた。キャンプリーダーとのコミュニケーションをするたびに僕の心は明るくなり、少しずつ英語が上手になったような気がしました。～ 卒業式の日もうキャンプリーダーとは会えないかもしれないと思うと涙がでてきて、それほどイマージョンキャンプが楽しかったんだなあと思いました。イマージョンキャンプから帰ってきて学校の宿題の自由研究で26ヶ国から来ているキャンプリーダーの出身地についてインターネットで調べたら、自分の住んでいる国で英語を使う国は12カ国、使わない国は14カ国でした。キャンプリーダーは自分の国で英語を使わなくても英語がかなり上手だったのでびっくりした。(Y.N 6年 男)

初めてキャンプリーダーに話しかけられたときはうなずくことしかできませんでした。～ キャンプリーダーは、本当のお兄さん、お姉さんのようなとても頼れる存在でした。少しすると、英文の単語のすべてがわからなくても話している意味はわかるようになりました。English Immersion Campに参加して今まで知らなかった世界を知りました。国と国の間には壁なんかないんだと思いました。英語でコミュニケーションをとれば世界のどこの国の人たちとも友達になれると思いました。僕ももっと英語を勉強してどこの国の人にも気持ちが伝えられるようになりたいです。(S.Y 6年 男)

卒業式で名前を呼んでいたのはVaughanだったが、途中、泣いて読めない状態になっていた。私はそのときにやっぱり外国の人でも、男でも女でも泣く時、笑う時はいっしょなんだなと思った。(E.Y 6年 女)

<成長・自信>

最初の3日間は、はずかしくてリーダーと話せず、友達とも親しくなれませんでした。でも、リーダーに声をかけることができなかつたら、リーダーから積極的に分かりやすい英語で、やさしく声をかけてくれ、そのようなことを何回もくり返しているうちにイメージンキャンプ、それに英語とも親しくなりました。いろいろな国の人と英語で話すという自信もつきました。

(Y.T 4年 女)

これからは、外国に行っても恥ずかしがらず、自分から進んでコミュニケーションがとれると思います。キャンプリーダーのことはぜったいぜったい忘れません。英語がわからなくても、間違っているだけでもやさしく何度もアドバイスしてくれました。「やればできる!!」(S.T 5年 女)

自分の中の英語の世界がどんどん広がっていきました。英語に対する自信もつきました。あこの2週間で、私は大きく変わったと思います。キャンプで出来た友達、キャンプリーダーをずっと大切にしていきたいです。そしてこのキャンプに行かせてくれた、お父さん、お母さん本当にありがとう!!と言いたいです。(M.U 6年 女)

このキャンプに参加して、英語を話す自信が少しついた。キャンプリーダーと話をするのも楽しかった。1日目、2日目は「Yes. No.」とか簡単な言葉しかしゃべれなかった。やっぱりちょっとはずかしかったです。でも3日目ぐらいからは、友達もできて少しは話せるようになりよかったです。それで Don't be afraid of making mistakes.の意味が大切だとわかりました。

(Y.T 6年 男)

<夢・目標>

これからの夢は、英語を話す English Immersion Camp に行ったのだから、日本のプロ野球ではなく大リーグでプレーしてみたいなあと思いました。～ 英語を使って大リーガーとコミュニケーションをたくさんとりたいと思います。(S.A 5年 男)

私の夢は一つだけでなく、二つ三つの国の通訳になることです。それはすごく大変なことだと思います。でも、いろいろな国の人とコミュニケーションができるという楽しみを考えれば、色々な国の言葉を勉強して通訳になるのはできないことではないと思いました。このキャンプは私にとっての小さな国際交流でした。私は、キャンプでたくさんの友達が英語だけでくれたということ、母国語以外の言葉が使えたという二つの大きな自信を得ることができました。これは今、英語を勉強している私にとっても、英語以外の国の言葉を勉強している未来の私にとっても、とても役に立つ「宝物」になると私は思います。～ スタッフやリーダー、それに、このキャンプに参加できるようにして下さった公文の先生、お父さん、お母さん、本当にありがとうございました。(A.I 6年 女)

Don't be afraid of making mistakes.この言葉を思い出し、積極的にいろいろなことにTryしたいと思います。私はいつかキャンプリダーとして English Immersion Camp にまた参加したいです。(Y.S 6年 女)

English Immersion Camp 2002 で英語を話してみてすごく自信ができました。～ 私は将来、大人になったら、いろいろな国へ行ってその国の文化を学んで、そして小説を書きたいです。その小説はすべての国の言葉で書かれ(訳され)すべての人に読んでもらいたいです。でもそのためには私は勉強しなければなりません。(R.S 6年 女)

私は大人になったら両親を海外旅行に連れて行って、外国人の言葉を通訳してあげたいという気持ちでCampに参加しましたが、まだまだ、もっともっと勉強しようと思いました。

(R.O 4年 女)

このキャンプで英語力がかなり身についたと思います。なので、ぼくの将来の夢の医者になることに活かしていこうと思っています。ナースには大変お世話になったので、ボランティアで、このキャンプの専門医になりたいです。(Y.K 4年 男)

私の夢は、世界をまたにける役者(パレーダンサー)になり、ブロードウェイでおどることです。そのためには、世界共通語となる英語が必要です。そのために私は英語を勉強します。

(A.K 4年 女)

私の将来の夢は小学校の先生です。～ いつかは、小学校で英語を教えると思うので、その時のために、英語の基礎をしっかりと身に付けておきたいです。(M.S 6年 女)

英語は人と人をつなげるコミュニケーションの言葉なんだなとぼくは思いました。伝えよう伝えよう、と思って話す気持ち伝わるのでとてもうれしかったです。僕の夢は、世界で活躍できる弁護士になることです。その夢のためにも英語をもっともっと勉強していきたいと思います。

(N.H 5年 男)

保護者の感想

「今までは、英語は解答するものと思っていたが、コミュニケーションするためのもの」と子どもが話していました。(N.S 5年 母)

卒業式の日、校長先生が日記に I don't want to go home anymore!! と書いている子がいると言われ、笑っていたら自分の息子でした(笑) ~ 日記は、毎日 I am very happy. と書かれていました。このキャンプに参加できたことを心から感謝します。(N.I 4年 男)

(キャンプ後に家族で出かけた遊園地で) あるアトラクションに並んでいたときのこと、後ろに外国人のご家族がいて英語で会話していたらしいのです。(彼によると「お父さんこれ面白いのかな? etc」のように)そしてその会話を耳にした息子はすかさず“This attraction is interesting!!”と話しかけ、そのインドの家族と楽しくお話できたと言うのです。うれしそうに報告してくれる息子を見て、キャンプでの2週間は本当に貴重な経験だったのだなと改めて思いました。

(Y.K 5年 男)

キャンプを終えた娘に起きた変化には驚かされました。~ 以前に比較しますと自分の考えや起きた出来事などを他人にどう理解させるかをより深く考えながら話すようになり、また人の話を聞くことに対しても一段と前向きな姿勢が感じられます。おそらくキャンプに参加された大勢の方たちとのコミュニケーションに苦労しながらも通じ合ったときの喜びが彼女を成長させたのだと思います。(A.K 4年 父)

卒業式の夜「大切なことがわかったよ。」という言葉を書いた時、思いきって送り出して本当に良かったと心から思いました。初めての環境のなかで新しい自分を見つけることのできたワクワクするような2週間だったようです。帰ってきてからは、自分に自信がついた様子で、以前にもまして積極的になりました。(R.S 6年 女)

充実感、達成感に満ち溢れた顔は一回り大人びたようにも見えました。~ 一番学んで帰ってきたことは、コミュニケーションの大切さです。公文で学んできた英語というツールを使い、自分の伝えたいこと、相手が望んでいることは何か、「一生懸命気持ちを伝えあうことで、心地よい空間を作れるんだ」ということを覚えたようです。(S.K 4年 父)

この夏、彼は、自信という今、何よりも彼にとって大切なものを、このキャンプで確かにしっかりといただいたと思います。~ 英語は勉強の枠を越えて、コミュニケーションのための手段のひとつとして必要ということが身をもって理解できたキャンプだったようです。

(T.S 6年 母)

これからの成長の過程に今回のキャンプは大きな一歩となりました。国際社会の中で人と接するコミュニケーションには英語が必要です。このキャンプはこれからも続き、我が子が今後はキャンプリーダーとして参加できたらなどと夢見ています。(S.T 5年 母)

街などで外国人に会うと「話してみようかな」と言ったりしています。まだはっきりしたことはわかりませんが、以前は、公文で英語を聞く、読むことは、テストの点数をとるための勉強でしたが、外国人と話したいから、自分の言いたいことを英語で話すために、英語を勉強すると思ってきましたようです。(M.N 4年 母)

参加生徒が通う公文式教室の指導者から

「先生、無事に帰ってきました。すごーく楽しかった。また来年も行きたーい。」と「元気な電話をもらったとき、行く前のちょっぴり心配そうな S くんとは、別人の S くんがいました。14 日間、毎日つけた英語の日記も見せてもらい、一生心に残る 14 日間を過ごしたのではないかなと思います。戻ってからの S くんは英語の学習も自主的に CD を聞いたり読んだりするようになり、何より変わったのが、ちょっとした日常会話を英語でするようになりました。このまま、英語への興味をもち続けてもらいたいと思います。

イマージョンでの 24 時間英語漬けの生活に「全く困ることがなかった！楽しかった！」という S さんの言葉に、日常の学習でコミュニケーションができるだけの基礎の力を身につけてくれた事、そんな子どもたちをみつめ、成長を認め、話す意欲を高めてくださったリーダーやスタッフの方々に大変感動いたしました。イマージョンキャンプに参加し、さらに意欲的に、英語にも取り組み周りにもよい影響を与えています。今後も可能性をもった子どもたちにたくさんの機会を与えていただくため、ぜひキャンプを継続していただきたいと願っております。

K 君がこのキャンプで得てきたものはなんでしょうか。今まで学んできた単語や文を使って言葉が通じた自信や喜びを体験したことは勿論ですが、「コミュニケーションは英語で」という制約の中で、しかも国や地域のちがう新しい仲間との 2 週間の生活で、もっと内面的な、人間として大切なやさしさ、おもいやり、協調、自立などを学んできたことを私なりに確信しています。

なぜなら「進度上位者のつどい」の大勢の前で、自分の夢、キャンプのことを見事なまでに堂々と発表している姿そのものに K 君の成長を見たからです。小さな 4 年生が、夢実現のために一歩踏み出したこのキャンプで、精神的に大きくなって帰ってきたことが一番うれしく思います。

キャンプ・リーダー、スタッフの感想

キャンプ・リーダー / M.H (シンガポール)

今年の参加者は去年の三倍。最初は、コミュニケーションがとれるか心配しましたが、みんなとってもよく話してくれました。

といってもキャンプ開始当初は、無口な子どもが多く、なかなか英語にトライしてくれませんでした。僕は、食事やミーティングの際に、Please use English! と励まし続けました。たとえば、「いただきます」は「Let's eat」。席にまだ着いていない子がいれば、「We have to wait」と言ってみんなを待たせたり。「まちがってもいいから、トライしよう。こんなチャンスは二度とないかもしれないよ。Try your best speaking English!」が合言葉になりました。そのうちに、子どもたちからどんどん英語が出るようになりました。

僕の母国のシンガポールでは、マレー人同士でも、最近は英語で会話するのが当たり前になってきました。日本で日本人同士が英語でしゃべっている様子は想像できないかもしれませんが…。

今や英語は世界の Common language です。まさに世界中だれとでも理解しあえるツールです。子どもたちが、このキャンプを通じてそのことを体感してくれたことが、とてもうれしいです。
-取材インタビューから-

キャンプ・リーダー / J.L (韓国)

The children came from all over Japan to learn to have confidence speaking in English. I believe they have indeed learned a lot. Not only the confidence to speak in English but also learned to get along with each other. But I would like to say that it wasn't just the children who learned so much, I believe the camp leaders were greatly influenced during the camp also, especially myself.

キャンプ・リーダー / J.J (マレーシア)

This was not only a camp for kids, I learnt a lot from many others as well. The idea to have this kind of camp was very good. For me, the best thing was receiving the warmest smiles from the kids. It gave me a lot of encouragement, the best support, and the sweetest memory for my life in Japan. Thank you so much Kumon, all the friendly and helpful staffs, my dearest camp leaders, and our sweetest children. Thank you for sharing a wonderful 2 weeks time together.

昨年引き続き、今年も English Immersion Camp に参加することができ、去年の経験から、キャンプを通じて子供たちだけでなく、キャンプリーダーやスタッフもキャンプを通じて多くのことを学ぶことができる確信が僕の中にはあった。しかし、キャンプ当初は子供の数が去年の3倍以上の100人、キャンプリーダーの数も50人となり困惑することもしばしばあった。しかし、自分の興味あるクラブに参加し、グループという枠を超えて交流していく子供たちや、子供たちに一生懸命に何かを伝えようとしているキャンプリーダーたちを目にし、ボケボケしてられないという気持ちになった。Do what you can, Where you are, With what you have という英語の格言があるように、ここで僕が子供たちが安全に楽しく2週間を過ごせるようにできるだけのことをやろうという強い意志が芽生えるきっかけになった。今年のキャンプも去年同様素晴らしいものであったが、規模の拡大に伴う問題点が浮き彫りになったようにも感じた。

今年のキャンプでは、ロジスティシヤンの数を減らし、キャンプリーダーが主体となって動くということがひとつの目標とされてきたが、キャンプリーダーへの連絡の不徹底などからそれが上手く伝わらず、結果としてスタッフが動かなければならないという結果になってしまった。またそれが、一部のキャンプリーダーにスタッフ間の意思疎通不足と取られてしまうこともあり大変残念に思った。また、キャンプリーダーのシフト制が今年から導入されたが、異なるグループのリーダー間でのシフトの入替などによって、必要なときに必要なだけの体制が整っていないケースもあったように感じる。シフトの徹底やスタッフ間のコミュニケーションなど容易に改善できる点は多くあると思う。それらの点が改善されれば、何か不測の事態（重大なことだけでなく、小さなことでも）に迅速に対処できると思う。改善できる小さなことの積み重ねが、大きな問題や事故を防ぐことになると思う。来年もこの English Immersion Camp が開催されると信じているので、何かの形で今年の反省を生かして来年への準備に携われたらと考えている。

次に今年一番よかった点を上げたいと思う。それは今年から導入された最新のプリンター（あれもかなり素敵だったが・・・）でもなく、おいしい食事でもなく（かなりおいしかったです。食堂の皆さん、ありがとうございます）でもなく、「クラブ」だと思う。去年はグループ・アクティビティが多かったためグループ内の交流がかなり進んだが、今年は子供たち自身が自分の興味のあるアクティビティに積極的に参加することで、子供たちの変化や成長が大きく現れたと思う。ジムで英語を使って体を動かす子や、ニュースや映画を作った子などキャンプ始めと終わりでは子どもたちの積極性が大きく変化したことにとっても驚いた。来年もぜひ「クラブ」を通じて子どもたちが生きた英語に親しむきっかけになればと考える。

最後に、50人の素晴らしいキャンプリーダーとそれを支えたスタッフの皆さん、公文国際学園の皆さんに心から感謝します。特に KUMON のスタッフの皆さん！貴方たちは本当に熱いです！本当に多くのことを学ばせていただきました。皆さんの優しい気遣いやお言葉がなければ僕はホームシックになっていました。最後までやり遂げることができたのも皆さんのおかげです。また来年も多くの子どもたちがこの English Immersion Camp を通じて生きた英語に触れ、英語を使っていけるようなきっかけになればいいな、と思います。本当に、ありがとうございました。

7. 昨年との変更点／今後の課題

主な変更点

定員・規模の拡大

できるだけ多くの子どもたちに参加の機会を提供したいと考え、定員を 30 名から 100 名に拡大し、全国から応募を募った。(対象者の学年、応募基準の変更はなし)

100 名の参加者、キャンプ・リーダー 47 名にスタッフを加え総勢 160 名の規模。それに伴って、運営体制、プログラムなども変更を試みた。

日程・期間

北海道や北日本など夏休みが早く終わる地域の子どもたちも参加できるように 8/20 以前に終了となるようにした。(昨年は 8 月下旬開催のため、募集対象を西日本に限定)

また、保護者、関係者が卒業式へ参加しやすいよう最終日を日曜日に設定した。

昨年は 12 日間で英語が自然に使えるようになったのはキャンプ後半であったため、英語でのコミュニケーションを楽しむ時間を確保する目的で 2 日増の 14 日間とした。

開催地・施設

収容能力、全国からの参加のしやすさ、協力体制などを考慮して、神奈川県横浜市の公文国際学園をメイン会場とした。

プログラム

全体のテーマと流れは昨年とほぼ同じであるが、初日の「日本語オリエンテーション」、「クラブ活動」を取り入れたこと「日記の発表」を初日から行なったこと(昨年は 5 日目から)が大きな変更点。

日本語オリエンテーション：英語での生活に入る前に、キャンプの意義・目的や大切な約束事などをしっかりと説明することで、子どもたちの不安軽減、意欲づけを目的とした。

クラブ活動：キャンプ・リーダーが主体となって企画・運営。それぞれの得意、個性、お国柄などを生かした、音楽、ダンス、スポーツ、料理、アート&クラフト、図書、ニュース&カメラの 7 クラブを期間中に 8 回設定。子どもたちは毎回、参加したいクラブを自分で自由に選ぶことができる。「自分のやりたいこと」を通じて主体的な行動を促し、自然な英語コミュニケーションの促進を目指した。

キャンプ・リーダーの役割

各グループでキャンプ・リーダーが、アクティビティーの準備・説明、子どもたちの生活面のサポートまでを担当する状態を目指した。(昨年はアクティビティーを通じて子どもたちと接するキャンプ・リーダーと、その準備や説明をするロジスティシャン、生活面を担当するスタッフと役割が分かれていた)

シフト制の導入

生活面のサポートは、朝当番と夜当番を決めて交代で担当。また、休憩や休息の時間を確保するためのシフトを組んだ。

今後の課題

このキャンプの目的については十分に達成されたと考える。しかし、まだ改善の余地がある。

規模

人数が多いということで盛り上がりやリラックスした雰囲気ができ、伸び伸び過ごせたという点ではよかった。しかし、1つの行動単位として、子ども100名（総勢160名）という規模は大きすぎた。

各グループにおいては十分密なコミュニケーションが図られたが、参加者全員が深く知り合うということは難しく、キャンプ・リーダー・ミーティングでも一人ひとりの子どものことを話題することが昨年よりも少なかった。

運営上もグループを越えた情報、細かい情報の共有、全体掌握などの点では困難が伴った。

運営体制

当初目指した、キャンプ・リーダーの役割、シフト制を十分に機能させるためにも、各担当者の役割や活動の内容について、できるだけ詳しく提示してお互いに共有しておくことが必要である。

また、キャンプ・リーダーの中でもそれぞれの役割のリーダーを明確にして、情報の伝達や共有、コミュニケーションを図り、ミーティングでの反省をすぐ次に生かせる体制が必要である。

事前研修

キャンプの主旨や価値観の共有とともに、キャンプ・リーダーがより積極的に子どもたちに関われるよう、具体的な指導法に関する研修の充実が求められる。

また、実際の活動内容についてキャンプ・リーダーと一緒に考えることで、さらに主体的でスムーズな運営が可能となる。

キャンプ直前の数日間で、現地でキャンプ・リーダーのためのプレキャンプを開催し、チームづくり、十分な事前準備を行なうのが望ましい。

生活面の自立、マナー

普段とは違う環境の中で、子どもたちのストレスや戸惑いも多い。一方、自由で楽しい活動が続きどうしても生活が乱れやすい。しかし、他者との協力・協調や基本的な生活のルールを守ること、活動の準備・片付け、掃除、洗濯、食事の手伝いなどは、「やるべきこと」として、最初の段階での意識づけが重要である。

その時、子どもたちが「迷わずに」できるように説明や掲示を行なうことが大切である。

8. 考察

このキャンプの目的・成果イメージについては十分に達成されたと考える。

- 子どもたちが、いろいろな文化をもつ人たちとの交流を通じてそれぞれの文化、考え方を
知り、世界の中の自分を感じる
- 子どもたちが、英語を使ったコミュニケーションの成功体験を持つ
- 子どもたちが、世界への広い視野を持ち、自信・自己肯定感・意欲・やる気を持つ

成功要因について

今回の成功要因は以下の2点。

1. 参加者が日頃の学習によってしっかりとした英語力と自信を身につけており、「英語でコ
ミュニケーションできるようになりたい」という強い意欲を持っていたこと
2. このキャンプの目的を共有し、一人ひとりの子どもの変化や成長を徹底的に認めて、ほめ
て、元気づけたキャンプ・リーダーやスタッフたちの存在

<1 について>

応募の条件は「意欲的に英語を学習していること」。その判断材料の一つとして「英検4級程度」を提示した。また、「英語でのコミュニケーションに挑戦したいという積極的な気持ちを持ち、本人が参加を希望していること」を重視した。

それでも、キャンプ当初は、緊張と不安の中で「間違えることが恥ずかしい」「通じなかったらどうしよう」という気持ちがはたらいて、英語を使いたがらないという状況もあった。上手に英語を使う子どもの存在に驚き、自信を失ってしまう子どももいた。しかし、キャンプ・リーダーと打ち解けていくに従って、「少しくらい間違っただけ大丈夫」「恥ずかしくなかない」という気持ちが芽生え、積極的、意欲的にコミュニケーションを試みるようになった。

子どもたちの感想文にも3～4日目がその転機だったと書かれているが、これだけコミュニケーションできたのは、日々の学習を通じて、キャンプ・リーダーの話す英語を聴いて理解する力、自分の気持ちを表現するための英語力をすでに身につけていたからである。(どんなに特別な環境でも、2週間で英語力を格段に向上させることは困難であり、求めるべきことでもない。)そして、何とかしてコミュニケーションとりたいという意欲、きっとできるはずだという自信や自己肯定感がさらにそれを推し進めたのである。

小学生で英検4級程度の英語力というと、かなり「優秀」な子どもと映るかもしれない。しかし、日々コツコツと学習を続けることでこのレベルの実力をつけることは十分に可能であり、決して極端なケースではない。事実、小学生の英検合格者は年々増加し、2001年度3～5級の合格者は64,479名に達している。むしろ将来的にはこの程度の英語力を目指すべきと考える。

<2について>

子どもたちが何かをするたびに、拍手が起こり、たくさんの誉め言葉が飛び交った。
Fantastic! ,Excellent! ,Good Job! ,Very Good! ,Way To Go! ,Wonderful! ,Super! . . .

多くの子どもたちが「キャンプリーダーはとても優しかった。」「自分の英語の順番がバラバラでも間違っていてもちょうと聞いてくれた。」「わかるまで何度でも説明してくれた」「だんだん英語を使うのが楽しくなって、英語を使うことが当たり前になった」と感想文に書いている。

「自分のためにこんなにも一生懸命に行動してくれる人がいる」「自分は期待されている、愛されている」と感じ始めたとき「今、目の前にいるこの人ともっと話したい」「自分の気持ちをもっと伝えたい、お互いもっと知り合いたい、分かり合いたい」という気持ちが芽生え、英語が世界の人たちをつなぐコミュニケーションの道具になった。

そして、日を追うごとに、子どもたちとキャンプ・リーダーの信頼関係は強まり、Don't be afraid of making mistakes. Let's try communicating in English.の姿勢が確実に浸透していった。

昨年との比較

学習スタイルの変化が、英語を積極的に使おうとする姿勢を高めた

100名のうち75名が英検5級以上を保有していたが、昨年は全員が5級以上を保有していた。英語の実力という点では昨年よりも低かったと考えられるが、学習開始から早い段階で、英語でのコミュニケーションに挑戦したいという意欲や自信を身につけることができた子どもたちととらえることもできるだろう。エントリーシートに綴られた期待や自信とともに、応募の事実が何よりもそれを物語っている。

そして、今年に参加者の方が、全体的に英語を声に出すことへの抵抗が少なく、英語を積極的に使おうという姿勢が高いと感じられた。もちろん、英語を使いやすくするための工夫や働きかけも行なってはいたが、2年目のキャンプ・リーダーたちからも、「英語を聴く能力」「英語でコミュニケーションしようとする積極性」の高さを指摘する声が聞かれた。それは、毎朝の学習タイムで、積極的に英語の音読に挑戦する子どもたちの姿からも確認できた。

そして、大きな変化が3日目の夜に訪れた。全体ミーティングの日記発表のとき、手を上げて、大きな声で「日記は、ぼくに読ませて！私に読ませて！」というアピールが始まったのだ。

昨年は同じ状況になったのが9日目であり、英語を使いたがらない時期「沈黙期間」があることをある程度覚悟していたスタッフやキャンプ・リーダーにとっても大きな驚きであった。

事前のアンケートによると、「毎日、CDを聞きながら学習している」という子どもの割合は昨年の30%から47%に増えていた。さらに、「毎日英語を声に出して読んでいる」という子どもが50%である。この学習スタイルの変化が、英語を積極的に使う姿勢を高めた要因の一つであると考える。[参考資料 P41 参照]

おわりに

涙の卒業式、We are the world の大合唱の中、100 名の子どもたちと 26 カ国 47 名のキャンプ・リーダーたちは、まるで一つの大きな家族のようになりました。そして、その姿は、我々に「こんな子どもたちでいっぱいになったら、きっと平和な世界が築ける」そう感じさせてくれました。

「いろんな国の人たちと、文化や考え方の違いがあっても、英語というたった一つの言葉でコミュニケーションをとることができた、お互いを理解し合うことができた」という成功体験を持った子どもたちは、英語が、世界の人たちの心をつなぐ大切な道具であるということ、そして、何よりも分かり合いたいと思う気持ちこそが大事なのだということ、肌で感じてくれたに違いありません。そして、キャンプが終わった今も、子どもたち、キャンプ・リーダーはメールや手紙で交流を続けています。小さいけれど世界平和への確かな一歩だと確信します。

今、日本では日常的に英語を使う環境にはありません。しかし、日頃からコツコツと英語を学習している子どもたちは、英語でのコミュニケーションを楽しむことができ、世界の人たちと心を通わせることができたのです。彼らの成功体験は、同じような状況で努力を続けている他の多くの子どもたち、そして大人たちにも大きな自信と勇気を与えてくれました。

14 日間は、決して平坦な道のりではありませんでした。親元から離れ、始めて会った人たちとの共同生活、しかも言葉が自由に使えないという状況の中で、子どもたちの不安やストレスは大人が想像する以上に大きかったはず。そんな子どもたちを支えたのは、子どもたちの可能性を信じ、一人ひとりに真正面から向き合い、本気で接したキャンプ・リーダーたちでした。

ある子どもは感想文にこう書いています。「キャンプ・リーダーはみんな優しく、否定的なことは一言も言わず、とにかくよく誉めてくれました。キャンプ・リーダーの質問にうまく答えられた時、キーボードが速く打てた時、みんなで協力して一つのことを成し遂げた時。2 週間誉め言葉のシャワーを浴び続けました。そして、その度に自分の中でどんどん自信が深まっていくのを感じました。」

子どもたちを信じ、あらゆる場面で変化・成長を認めて、誉めて、元気づける。自信を身につけた子どもたちは驚くほど積極的になっていきました。英語だけではなく、「失敗を恐れずに挑戦する力」「やればできるんだという自信や自己肯定感」をさらに大きく膨らませることができました。しかし、彼らは決して現状に満足していませんでした。さらに世界へと視野を広げ、「もっといろんな人と自由に英語でコミュニケーションがとれるようになりたい」「将来の夢や希望をかなえるためにもっとがんばろう」と意欲を高め、次への一歩を踏み出したのです。

そんな子どもたちの変化と成長に接し、大人たちもまた、多くのことを学ぶことができました。夢や目標をもって努力を続けられる、こんな子どもたちでいっぱいになりたい。そのために、大人が子どもたち一人ひとりの可能性を信じて、本気で向き合しましょう。子どもたちこそが未来なのですから。

参考資料

参加者の内訳

学年・性別

学年	男	女	計
4年	12	13	25
5年	20	15	35
6年	16	24	40
計	48	52	100

英検資格保有状況

学年	5級	4級	3級	準2級	不明	計
4年	7	8	1	1	8	25
5年	8	10	3	2	12	35
6年	19	13	3		5	40
計	34	31	7	3	25	100

住所（全国 34 都道府県）

都道府県	男	女	計
北海道	4		4
青森県	1	1	2
秋田県	1	1	2
宮城県		1	1
福島県		1	1
栃木県		2	2
茨城県	5	3	8
埼玉県	2		2
千葉県	2	3	5
東京都	4	3	7
神奈川県	4	10	14
長野県		2	2

都道府県	男	女	計
新潟県	1		1
静岡県	1	4	5
愛知県	4	3	7
岐阜県	1		1
三重県	1	1	2
大阪府	3	3	6
兵庫県	4	3	7
京都府		1	1
奈良県	1		1
和歌山		1	1
岡山県	1	1	2
広島県	1	1	2

都道府県	男	女	計
山口県		1	1
鳥取県	1		1
香川県	1	1	2
福岡県	1		1
佐賀県	1		1
熊本県	1	2	3
大分県	1		1
宮崎県		1	1
鹿児島		2	2
沖縄県	1		1
計	48	52	100

キャンプ・リーダーの内訳

出身国	男	女	計
オーストラリア	2	1	3
ブルガリア		1	1
カナダ	2	1	3
チェコ		1	1
エクアドル		1	1
フィンランド	1		1
ガーナ	3		3
ハンガリー		1	1
インド		1	1
インドネシア	1		1
イラン		1	1
日本		2	2
ケニヤ	1	1	2
韓国		2	2

出身国	男	女	計
マレーシア	1		1
マリ	1		1
ネパール	1		1
ニュージーランド	1	1	2
フィリピン	2	2	4
ロシア		1	1
サモア		2	2
シンガポール	1	1	2
スリランカ	2	4	6
タイ		2	2
トンガ	1		1
ジンバブエ	1		1
計	21	26	47

アンケートの集計結果

キャンプ終了直後に実施 郵送による記名方式 有効回答数 95

5段階評価-5:大変そう思う 4:そう思う 3:ふつう 2:そう思わない 1:全く思わない
(人数)

	5	4	3	2	1	平均
Q1:English Immersion Camp は楽しかったですか?	90	4	1	0	0	4.9
Q2:もし、可能なら来年も参加したいですか?	87	6	1	1	0	4.9
Q4-1:英語が使えるという自信ができましたか?	43	40	9	3	0	4.3
Q4-2:新しい友だちができましたか?	82	11	1	1	0	4.8
Q4-3:何でもやればできるという自信ができましたか?	48	36	9	2	0	4.4
Q4-4:世界を身近に感じることができましたか?	57	26	10	2	0	4.5
Q4-5:世界のいろんな国の人と知り合うことができましたか?	79	13	2	1	0	4.8
Q4-6:たくさんほめてもらうことができましたか?	44	36	11	3	1	4.3
Q4-7:まちがいをはずかしがらないで英語を使おうという気になりましたか?	56	27	9	2	1	4.4
Q4-8:積極的なコミュニケーションが大事だと感じましたか?	65	27	1	1	1	4.6
Q4-9:もっと英語をがんばろうと思いましたか?	81	12	2	0	0	4.8
Q4-10:自分の意見をはっきり言えるようになりましたか?	43	38	13	0	1	4.3
Q4-11:新しい目標を持つことができましたか?	61	25	7	0	2	4.5

Q3:一番楽しかったアクティビティーを「3つ」選ぶとしたら?

順位	アクティビティー	人数	順位	アクティビティー	人数
1位	パーティ	38	6位	友だちとおしゃべり	18
2位	クラブ活動	37	7位	アメリカの子どもたちとの交流	15
3位	キャンプ・リーダーとおしゃべり	36	8位	スポーツ大会	14
4位	キャンプファイヤー	31	〃	バーベキュー	14
5位	Tシャツ作り	19	10位	卒業式	9

2001年と2002年 参加者の学習姿勢の変化

英語を学習するとき、「CDを毎日聴いているか?」「毎日、英語を声に出しているか?」

2002年	毎日	ときどき	出していない	空白	計	2001年	計	%
毎日聴いている	36	10	1		47	毎日	9	30%
学習日だけ	13	26	1		40	学習日だけ	19	63%
聴いてない	1	5	1		7	聴いてない	2	7%
空白				6	6			
計	50	41	3	6	100	計	30	100%

メディアによる取材・報道

◆毎日小学生新聞(8/22)

第22972号 発行所(株)毎日小学生新聞社 毎日小学生新聞(日刊) 2002年(平成14年)8月22日(木曜日)

文化交流特使 授業の定数を増やした分限のAに...
せーんぶ英語の夏合宿 留学生リーダーとキャンプや工作
サンスイ 印刷のOJ用紙...
OLYMPUS



第43回 自然科学観察コンクール



◆朝日小学生新聞(8/29)

朝日小学生新聞 2002年(平成14年)8月29日(木曜日) 第10947号

朝日小学生新聞

横浜でお友だち100人がキャンプ
 先生は20か国からの留学生
 料理したり運動したり
 活動しながら英語学ぶ



帰国生は
 すてき経験に
 家に帰りにたくない



いろいろな練習
 ホームページに
消防関係の種
入る紙
入る紙
入る紙

指針料以上に価値のある
『おれがたのこころ』

よこはま版

リーディング
パンチャイプラザ

毎週毎朝の読書活動...
リーディングパンチャイプラザ...
読書活動の中心となるのは、
「リーディング」の、
人際関係づくり...
読書活動の中心となるのは、
「リーディング」の、
人際関係づくり...

四季の味
サザエのルコニ



代表的バターで調理



作り方
作り方は...

留学生たちと2週間 共同生活



「家の公園国際学園」
ゲームや料理通じ学習
The House of International Education...
International students and Japanese students...
living together for two weeks...

英語漬け 楽しむ児童

英語漬け...
児童が英語を楽しく学んでいる様子...

◆教育新聞(9/2)

教育新聞(9/2)の記事抜粋:
「カンボジアを視察し帰国帰省...」
カンボジアを視察し帰国帰省...
100名の子どもたちと26カ国...
47名のキャンパスリーダーは...
一つの家庭になった...

◆TVK テレビ神奈川 (HAMA 天国 9/5 放映)



英語を話しやすくするために
簡単な発表をたくさん行った



最後に100名の子どもたちと26カ国
47名のキャンパスリーダーは
一つの家庭になった...

英語基本指導マニュアル（日本語版）

（1）英語教育上の目的

このイングリッシュ・イマージョン・キャンプは、子どもたちに英語を実際に使う体験をさせること、英語でコミュニケーションができたという成功体験を持たせることを目的にしている。

「成功」というのは、正しい英語で正確に話せたということではなく、どんなかたちにせよ、コミュニケーションを試み、何かをなし得たということである。英語で言ったら伝わらなかったら身振り手振りでなんとか意思を伝えることができた、ということでも十分なのだ。我々は子どもたちが何とか通じさせようとする姿勢が最も大切だと考えている。そして、伝わらないことも含めて、英語を使った様々な体験を重ねることに価値があると考えている。

このキャンプのもう一つの目的は、様々な異なる文化をもつ人々——つまりあなたたち！と直接に触れ合うことである。日常の細かいことから考え方まで、様々な面での“違い”があることを知り、その違いを前提としながら互いに尊敬し合い、協働して何かを成し遂げる。そのためのコミュニケーションの大切さを体験的に知ること、これこそ子どもたちが将来グローバルな視野をもって地球社会に貢献できる人材となるためのかけがえのない財産となると確信している。

注意すべきことは、キャンプの全日程を通じて、子どもたちに、何かを成し遂げたという達成感をもたせることである。自己肯定感が他者への共感と尊敬を育む。英語がどのくらい有効に使えたかということとは別に、英語を使って異なる文化をもつ人々と交流することが好きになり、自分自身にもプラスのイメージをもてること——これを参加するすべての子どもたちに実現しよう。

（2）基本姿勢

- ・子どもたち一人ひとりを一人の人間と認め、本気で友だちになってください。
- ・子どもたちの名前を呼び、目を見て話すようにしましょう。その子があなたの言いたいことをどのくらい理解しているかを常に意識してください。
- ・できるだけことば（英語）をたくさん話してください。身振りで示せばわかることも、必ずことばをそえて、ことばで伝えるように心がけましょう。
- ・逆に、身振りや物を見せたり、理解の補助になるものはどんどん使いながら話しましょう。各アクティビティには、使えるものがいくつか用意されています。
- ・クラスルーム・イングリッシュのような決まった表現を意識的に多く使いましょう。これらははじめに子どもたちに練習させておきますので、理解を促進するのにたいへん有効です。
- ・子どもたちをたくさんほめてください。特に英語で話したとき、話そうとしたときに、最後までうまく言えなかったときですら、勇気付け、ほめることが大切です。
- ・子どもたちの発話の誤りを指摘したり訂正しないようにします。まず英語で話そうとした姿勢を認めその上で正しい表現で言い直しましょう。

例) 料理の場面で

"Tomato, cut..... I want.. cut.... tomato....."

"Oh, great! You want to cut these tomatoes? You can cut tomatoes! OK!...."

ただし、同じ単純な間違いを繰り返す子には、教えてあげることも効果的です。

- ・子どもの理解度を知るために、常に様々な方法で働きかけてみましょう。「わかる?」「OK?」「わからない人?」「○○(名前)は?(大丈夫?)」
- ・話さない子に発話を強要することだけは絶対に避けてください。たとえ1語の返事だけでも、です。子どもたちが、はじめて外国語の環境に置かれた場合、全く話さない時期(Silent Period)があり、長い場合は3ヶ月から6ヶ月にもなることが証明されています。そして、この時期に発話を強要すると大きな精神的なダメージを受けることがあるとも言われています。話さない子は、目を見て了解していることがわかったら、そのまま先に進みましょう。決して無視せず、うなずいたり、「OK」と言ったりしてこちらがその子のことを認めていることを示してから。
- ・少し難しいことの場合は、2人のリーダーでやってみせるなど、お手本を見せます。できない子に対しては、途中まで一緒にやり、最後に一人でやらせるようにしましょう。キャンプのすべてのプログラムを通じて、うまくできるのではなく、TRY すること、下手でも最後までやりきることが大切です。

(3) 英語の使い方

●生徒が理解しやすいように、以下のポイントに注意して話してください。

1. 短い文で話す。文法的に正しい文が望ましいが、あくまで「自然に」を原則に。
 2. 常に、抽象的な単語でなく、より具体的でbasicな単語を選んで使う。
 3. ややゆっくり話す。生徒が理解しているかどうかによって、速さを変えるようにします。(どんな場合でも不自然なほどゆっくり話す、というわけではありません)
- ※できるだけ多くの人にわかりやすい発音・アクセント・イントネーションを心がけてください。英米風である必要はありませんが、自分の発音の傾向を意識しておくことは有効です。
4. 重要なことや、子どもたちがわかっていない様子のときは、繰り返す。
 5. 別の単語や表現で言い換えることも常に心がけてください。また、話のまとめを行うことも。
 6. 話の途中や、最後に子どもたちが理解しているかどうかの確認を入れるようにする。
 7. 注意をひくために、子どもの名前を呼ぶ。(話の前後や途中にも)
 8. 「いま、ここ」"Here and Now"でのことはわかりやすい。できるだけ「いま・ここ」の話をしよう。
「いま・ここ」でない話の場合は、理解をたすけるもの(絵や写真とか)をできるだけ活用しよう。
 9. アクティビティのはじめに説明するときなどは、カギになることばや概念を紹介しておきます。
(キーワードは、各アクティビティの手順に記載してあります)
 10. 日本語は一切つかいません。あなたが日本語ができる場合、子どもが日本語で話しかけてきたら、それを理解してあげて英語で言い換えたり、答えたりしてあげましょう。日本語がわからない時は、英語で質問するようにたすけてあげてもかまいませんが、強制的に言わせることにならないように気をつけましょう。とにかく、英語で言えないために子どもがあなたに話すのを放棄してしまわないように、常に励まし補助してやるのが大切です。

このようなバイリンガル教育やイメージ教育に興味のある方のための参考文献

Colin Baker, *Foundations of Bilingual Education and Bilingualism* 1993

Snow, M.A. *Foreign Language Education :Issues&Strategies* 1990

English Immersion Camp 2002 Report

これからの地球社会を生きる子どもたちのために

編集・発行 KUMON English Immersion Camp 事務局
〒530-0001 大阪市北区梅田 1-2-2
大阪駅前第2ビル 9F (グループ広報室内)
TEL : 06-4797-8777 FAX : 06-4797-8785
発行年月 c 2002年10月